■ ジュニア新聞 ■

支えは地域の絆

学びの場から

避難生活強いられた発達障害の子

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故では、発達障害のある子どもも数多く被災し、避難生活を強いられた。学校や地域に見守られ、新たな一歩を踏み出す家族がある一方、避難先で孤立を深める母親もいる。震災を通じ、地域の絆の大切さが浮き彫りになった。

▒ 発達障害　発達障害者支援法ではコミュニケーションがうまく取れない自閉症、読み書きなど特定分野の習得が困難な学習障害（LD）、注意力に欠け動きが回りがちな注意欠陥多動性障害（ADHD）、自閉症に近いが知的障害はないアスペルガー症候群などを発達障害と定義。脳機能の障害が原因とされるが詳しいメカニズムは分からない。文部科学省は小中学生の6・3％が該当する可能性があるとしている。

理解求め対応例紹介

情報センター リーフレットを作製

発達障害のある子どもの多くは生活の変化が苦手だ。集団生活が苦痛な子も多く、避難所で騒いで家族が居づらくなるケースもあった。外見で障害の有無が分かりにくく「親のしつけが悪い」と誤解されることもある。

発達障害情報センターなどはこうした子を支援者に理解してもらうために対応例を紹介したリーフレットを作っている。

震災の被害を受けて、文部科学省の検討会は学校施設の在り方を議論。緊急提言で、学校を避難所にする際に「障害者の受け入れの配慮」を求めた。介助が必要な被災者を集める福祉避難所に特別支援学校を指定するなどの対応も必要とした。

母親の孤立防ぐ

若松の児童デイサービス

部屋中に広げたおもちゃで遊ぶ子どもの笑いが響く。「来て良かった。震災の前と同じ顔している」。見守る母親(三〇)がうれしそうに話した。

会津若松市の児童デイサービス「はまっ子くらぶ」は二階建て住宅の一階にある。原発事故で避難した障害児を地元の福祉施設だけでは受け入れきれず、八月に開所した。幼児や小学生ら約十人が運動や工作をし、遊ぶ。

県が事業主体で、全国児童発達支援協議会に運営を委託、無料で使える。現地スタッフに加え協議会加盟施設が交代で職員を派遣している。

妊娠中だった母親は長男(三)と次男(二)とともに、双葉町から避難。原発から三キロ余りの自宅には戻れず、四月に三男を出産。五月に猪苗代町のホテルへ。長男は余震におびえ、言葉の遅れがある次男は自閉症の傾向と診断された。

見知らぬ土地で不安な中、紹介されたのが「はまっ子くらぶ」。次男へのアドバイスを受け母親は「気が楽になった」。

大熊町から会津坂下町の実家に避難した別の母親(四三)は、ダウン症の次男(七)が利用する。

大熊町では隣町の施設に通っていた。「伸びる所は伸ばしたい。今までやったことを途絶えさせたくなかった。ここなら安心できる」と話す。

現地スタッフの中村容子さん(三七)は「知らない場所で親は環境の変化に戸惑う。子どもはいっぱい遊んでストレスを発散してほしい」と話す。

県の相談支援アドバイザー青柳百合子さん(五〇)によると、避難所で子どもが騒いだり体調を崩したりしても、相談先が分からず悩む保護者がいた。仮設住宅でも迷惑を心配し、アパートを探して出て行く人もいる。

青柳さんは「避難先を転々とし、地域のコミュニティーから外れてしまう」と孤立を心配する。「『はまっ子くらぶ』などで、一人じゃないことを伝えたい」と話す。

ただ「はまっ子くらぶ」は来年三月まで。避難生活の見通しは立たない。「残る人、去る人、双方を支援する場所をどれだけつくれるかが課題」と青柳さんは指摘した。

「はまっ子くらぶ」で過ごす男の子（中央）＝会津若松

被災地の69施設アンケート

運営が困難なケースも

あいち児童発達支援連絡会（愛知県）が四月、福島、岩手、宮城の三県の児童デイサービス施設に、被災状況や必要な支援を尋ねたアンケートで、運営が行き詰まったり、子どもの対応に追われる様子が浮かんだ。六十九施設が回答。

岩手県のある施設は津波で壊滅。「施設の被害はないが、避難所となり休園」（本県）というケースも。「利用者のキャンセルで、スタッフの給与と経費が払えず困った」（宮城）、「スタッフが自主避難し再開が難しい」（本県）という所もある。

「お母さんもストレスで、子どもに大声でピリピリしている」（岩手）、「子どもが地震に敏感になった」（宮城）との報告や、「障害児というと、ボランティアもなかなか来ない」（宮城）と人手不足の訴えも。

本県の施設は「外遊びをさせてあげられず、運動不足やストレスで、心身のバランスを崩した子がいる」と原発事故の影響を指摘した。

厳しい状況だが「悲しみが多い中、子どもたちとの絆、保護者との信頼関係、学校との連携、地域とのつながりを感じることができた」（宮城）との回答も寄せられた。

◇おことわり　「スポーツいじん伝」「英語パズルに挑戦！」は休みました。

アンケートの主な回答

- 岩手県：施設は津波のため壊滅した
- 岩手県：お母さんもストレスで、子どもに大声でピリピリしている
- 宮城県：利用者のキャンセルで、スタッフの給与と経費が払えず
- 宮城県：子どもが地震に敏感になった
- 福島県：スタッフが自主避難し再開が難しい
- 福島県：外遊びをさせてあげられず、運動不足やストレス

英語パズルに挑戦！

9月25日 出題の答え